

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4170500039
法人名	社会福祉法人 伊万里敬愛会
事業所名	グループホーム 椎の木の家
所在地	伊万里市黒川町大黒川2201番地 (電 話) 0955-27-0113

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成2年3月2日	評価確定日	平成21年5月8日

【情報提供票より】(平成 21年 2月 20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 10年 1月 1 日			
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人
職員数	9 人	常勤	4 人, 非常勤	5 人, 常勤換算 9 人

(2) 建物概要

建物構造	木造瓦葺造り 2階建て
------	----------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	8,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円+実費
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食 200 円 夕食 400 円 または1日当たり 900 円	昼食 300 円 おやつ 0 円	

(4) 利用者の概要(2月 20日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	3 名	要介護4	5 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 89 歳	最低 83 歳	最高 97 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 二期会 小島病院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

古い民家改修型で、利用者には馴染みのある落ち着いた雰囲気を感じることができる。立地場所としても裏には湖があり 四季折々の花が楽しめる風光明媚な環境にある。入居者は地域の一員として大事にされている。24時間ボタンひとつで救援に駆けつける防災システムの整備や地区消防団との共同訓練も行われている。行事などの際には家族等の協力がありスタッフの励みになっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回外部評価での改善課題の指摘はなかった。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は全職員で取り組み、ケアの再認識や見直しに繋げている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は駐在員、行政担当者、入居者家族などのメンバーで2ヶ月に1度開催されホーム活動や取り組みを説明している。地域の行事案内などもその時受けている。参加者からの意見や相談も出していただき改善に向けた検討につなげている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族会を設け、家族からの意見や要望などが出やすい仕組みを作っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 事業所に対する地域の人たちの理解も深く、地域に溶け込んだ暮らしがある。調味料や食材などは近くの商店で購入している。退所された家族が手作りの野菜を持って「懐かしくて寄りました」と来られることもある。

2. 評価結果（詳細）

（ ☐ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「認知障害があっても一人一人が地域の中で当たり前暮らしながら、人間の尊厳を大切に生きていく」という創設当初からの理念を今も受け継いでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日、朝の申し送り前に、出勤職員全員で唱和し、理念の共有と実現に取り組んでいる		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所に対する地域の人たちの理解も深く、地域に溶け込んだ暮らしが営まれている。調味料や食材などは近くの商店に買いに行っている。地域の一員としての日々の生活が自然に過ごされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	自己評価には職員全員で取り組みサービスの向上に努めている。自己評価及び外部評価は職員のケアの振り返りや見直しのよい機会と考えている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では事業所からの報告とともに参加者からの質問、意見、要望を受けサービスの向上に繋げている。地域、行政、家族の代表者が会議のメンバーとして必ず参加されている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	認知症研修機関として従事者研修だけでなく創設者研修の場としての役割もある。関係行政との協働の関係が作り上げられている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	広報誌を発行し暮らしぶりを伝えている。面会の折には一緒にお茶を飲みながら状況を伝えている。預かり金規程に基づき、家族と相談の上金銭を預かり、領収書と共に家族へ報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を設け家族からの意見や要望が出しやすい仕組みを作っている。改善を要望する意見が出た時は皆で話し合いサービス向上に努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は職員の質の向上の機会として捉えており、馴染みの関係に配慮しながら職員異動が行われている。異動の人員は最小限にとどめられている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながら資格取得ができるような法人内の仕組みがある。月に1回法人内の研修会も実施され参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県の事業者団体に加入し、各種勉強会、研修会を通じて他の施設関係者との情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居により、馴染んでもらっている。不安の強い利用者には夜間添い寝することもある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は話を聴くことを大事にしている。利用者から教わった人生の先輩としての知恵を毎日の生活の中で活かしている。職員が利用者からいたわってもらったり励ましてもらうこともあり、支え合う関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中でボロリと出た利用者の本音に向き合い、その本音に応える努力をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎日の業務日誌やミーティングの中から担当者が課題を出し、ケアプラン会議に於いて全員で話し合い、介護計画を作成し、家族の要望了解を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヵ月毎の定期的な見直しとそれ以前に変化が生じた場合は必要な関係者と話し合い随時、現状に即した計画を作成するようにしている		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族を交えての敬老祝賀会や温泉旅行、また体調不良時の病院受診など、家族対応が不可能な時も含め職員の勤務体制を変更したり勤務時間を延長したりして柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院で4ヶ月に1度の健康診断と月に1回の診察を受けるなど、適切な受診支援が行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	協力病院の主治医との連携を図り、家族などとも話し合い、方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	「認知障害があっても一人一人が地域の中で当たり前暮らしながら、人間の尊厳を大切に生きていく」という理念を基に対応している。個人情報の記録物は鍵のかかる書棚に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間にとらわれず、その時その時の利用者の希望を優先し対応している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に料理ができる人は限られているが下拵えなどを手伝ってもらっている。台所から流れてくる煮物のにおいなども大切にしている。旬の食材を使うことを心がけている。行事食のときはお酒も用意している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望があれば毎日の入浴も提供できる。体力や体調によりその人に合わせた入浴を支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物干し、たたみ、掃除、食事の準備など仕事をした方が落ち着く人と歌などで落ち着く人などその人に合わせて支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気がいい日、デイサービスへの訪問日、花が咲く頃など希望に沿って戸外に出る機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	誰でも自由に入出入りできるように鍵をかけないケアに取り組んでいる。また近隣の方には利用者の方を知ってもらい、見守りをお願いしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成し事業所だけの訓練ではなく地域住民の参加、協力を得ながら避難訓練を実施している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日のチェック表に記録し職員が情報を共有している。献立は定期的に専門的なアドバイスを受けながら作成されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	和風家屋を最大限に生かした民家改修型で家具調度品も木質が中心であり、家庭的で落ち着いた雰囲気作りに心がけている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具類を含み、何でも持ち込み自由で家族の写真を飾ったり、仏壇を持参されたりするなど、安心して生活できるよう心がけている。温度計湿度計を設置し環境の管理に配慮が行われている。		